

耕地・森林生態系の保全生態学

2010年度に生物多様性条約第10回締約国会議がわが国で開催されるなど、生物多様性に関する関心が高まっています。連合農学研究科の研究対象である森林生態系や耕地生態系は陸上の重要な自然景観として位置付けられ、多様な生物の生息場所としての機能が重要視されています。しかしながらこれらの自然・半自然生態系は様々な外的要因により生息する種のリスクに直面しています。

こうした生物多様性や種多様性を阻害する要因について解説し、保全するための耕地生態系・森林生態系の管理手法についてお話し、生態系管理の重要性と面白さをお伝えします。

日時 平成23年 **11月27日(日)**
12:45~16:45 受付12時開始

場所 河合塾岐阜校 7階71番教室
(岐阜市)

受講対象者 一般・高校生
(環境や生物に興味ある方)

備考 **入場無料**
申込不要・テーマ毎の参加OK

岐阜大学大学院連合農学研究科は、岐阜大学と静岡大学で構成する博士課程の大学院で、農学分野を中心に研究・教育活動を行っています。この環境講座は、本研究科が中心となり、構成大学の岐阜大学応用生物科学部、静岡大学農学部等の協力を得て行います。

時間	内容	
12:45~13:00	水永 博己 (静岡大学農学部教授)	「岐阜大学環境講座：耕地・森林生態系の保全生態学」を開催するにあたって
13:00~14:00	土田 浩治 (岐阜大学応用生物科学部教授)	「昆虫の分布を決める地史と人間活動」 生物の分布は、その生物が背負ってきた歴史的背景、つまり、生息地への適応とその生物自身の移動分散によって決められてきました。また、それが人為的な移動でその分布が影響を受ける場合があります。今回は、日本在来のギフチョウやウスバシロチョウと人為的な侵入生物を例にして、その分布がどのような地理的な影響を受けているのかについて分析した例を紹介し、これらの生物が、どのような歴史的背景を背負っているかについて紹介します。
14:10~15:10	山下 雅幸 (静岡大学農学部教授)	「環境保全型農業を支える生物多様性」 耕地の生物多様性は、私たちに様々な生態系サービス(生態系が人間にもたらす恵み)を提供しています。たとえば、ハチによる作物への送受粉、クモ類による害虫の捕食などです。しかし、このような耕地における生態系サービスを定量的に評価した研究はまだ多くありません。また、耕地の生物多様性や生態系は、農業の近代化、集約化によって負の影響を受けてきました。ここでは、耕地における生物多様性の保全や環境保全型農業について紹介します。
15:15~16:15	向井 譲 (岐阜大学応用生物科学部教授)	「樹木の遺伝的多様性の保全」 遺伝的多様性の変化は、目で見ただけではわからないため見過ごされがちですが、生物多様性の保全を考える上で重要な問題が含まれています。この講座では、東海地方にのみ自生する絶滅危惧種マメナシの遺伝的多様性と繁殖状況、ソメイヨシノと野生のサクラとの交雑の2つの研究例を紹介し、すでに絶滅危惧種になった種の保全管理や樹木の植栽や移植に関する留意点など遺伝的多様性の保全策について考察します。
16:15~16:30	水永 博己 (静岡大学農学部教授)	質疑応答



主催: 岐阜大学大学院連合農学研究科
構成国立大学法人(岐阜大学・静岡大学)

協賛: 河合塾 岐阜校

問い合わせ: TEL 058-293-2985

E-mail: renno@gifu-u.ac.jp

